

# 小学校第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

## 単元名：「UD 公園をつくろう」（みんなが住みやすい町を目指して）

指導者 熊野町立熊野第一小学校 管野 朋子

- 1 日 時 令和3年10月11日（月）5校時  
 2 場 所 体育館  
 3 学年・学級 第4学年2組（40名 男子22名 女子18名）



### 単元について

本単元は、第4学年の総合的な学習の時間の中で、「福祉」の学習として52時間扱う内の計画の後半の29時間である。1学期には、ユニバーサルデザイン（以下UDと表記）とは何かについて調べたり、赤ちゃん・小学生以下・小学生・中高生・妊婦・高齢者など様々な立場（年齢による様々な立場）になりきり、「学校はUD」なのかを考えたりしてきた。さらに、詳しく学びたいという児童の思いから、熊野町社会福祉協議会と連携し、目の見えない方・耳が聞こえない方・足が不自由な方・高齢者・妊婦等の疑似体験を行った。これらの学習から、身の回りのものがUDかどうかを考えてみる視点が身に付き、年齢・立場によって「思い」や「願い」の違いがあることを知ることができた。本単元では、1学期に「学校はUDか？」で学んだことをもとに、学校内から学校外へと視野を広げて、様々な人が使う「公園」にスポットを当て、だれもが使いやすい公園づくりに取り組む。公園は、だれにとって使いやすい工夫があるのか、地域で暮らす様々な人のために自分達に何ができるのか等、課題の解決に向けて思考する場面を設定し、相手意識や目的意識を明確にしなが、主体的・協働的に学習していけるようにする。

そして、この学びを通じて、様々な状況や立場にある周りの人々の気持ちを想像し、自分には何ができるかを考えて行動していくことが、誰にとっても過ごしやすい「本当のUD」であるということを知ることができるようにする。

### 児童の実態

本学年の児童は、1学期の「ユニバーサルデザインとは何だろう？」の学習と並行して、家庭や、総合的な学習の時間以外の時間でも、自分が見つけたUDについて、友達や担任に伝える子が多く、UDに対する意識が高まってきている。授業では、車いす、高齢者、妊婦さん、耳が不自由な方、目が不自由な方の体験を行って来て、日頃自分達が気にしていなかったことで困り感を感じているということに気付いてきた。また、総合的な学習の時間に行った振り返りでは、学校以外で町にはどのようなUDがあるのかを調べてみたいという思いをもっている児童もいた。

次に提示する表は、本学級で本単元導入前に行った総合的な学習の時間の学習に関する児童の意識調査アンケートの結果（令和3年9月3日実施/40名）である。

質問内容	肯定的回答（人）		否定的回答（人）	
	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
①「総合的な学習の時間」は、好きですか。	16	21	3	0
②「総合的な学習の時間」の好きなところはどこですか。	・色々知ることができる。（体験できる） ・考えるところ。発見があるところ。 ・アンケート作り。 ・意見を出し合うところ。友達と協力して学習するところ。			
③「総合的な学習の時間」で、「さらに考えたい」「もっと知りたい」と思うことがありますか。	18	18	2	2
④「総合的な学習の時間」で、「さらに考えたい」「もっと知りたい」と思う時はどんな時ですか。	・自分の興味がある内容だったとき。 ・自分の考えを聞かれたとき。 ・疑問が生まれたとき。 ・体験活動をして自分が知らないことを知った時。			

②では、児童の総合的な学習の時間へのとらえを問った。協働的な場面を通して、自分が知らなかったことに出会った時や、知るために試行錯誤して活動する際に学ぶ楽しさを感じていることが分かった。そのため、教材への出会い方を工夫した授業構成にしたい。

③では、『「総合的な学習の時間」で、「さらに考えたい」「もっと知りたい」と思うことがある』に対して、「あてはまる」と答えた児童は36人であった。多くの児童は、授業の中からさらなる問いを見出してい

るが、4人の児童が問いをもてずにいるということが分かった。この4人の児童が主体的に学習に向き合っているようにする手立てを考えたい。

④では、どういう時にさらなる問いを見出すのかを問った。興味や疑問が児童の中で生まれるきっかけとして、体験活動や、児童の思考と現実の差がある場面があるということが分かった。

これらのことを踏まえて、児童主体の「～したい」という気持ちを大切に、自分達が考えたことを誰かに伝え、行動を起こすことで、「自分達の手でだれもが暮らしやすい町をつくる」という思いや達成感がもてる学習にしていきたい。

## 単元の指導および協働的な学びの場の設定について

本単元の課題設定の場面では、みんなが使う場所として「公園」にスポットを当て、学校から近い「ふれあい公園」にはUDがあるのかを探る活動から始めた。ふれあい公園でUDを探した後、見つけたUDを出し合い、整理し、互いの発見の共通点や相違点を考えた。そして、「自分達が見つけたものが全てなのか。」と問い掛けることで、「公園を作った人（管理者）の話を聞きたい。」「もっと詳しく見附きたい。」など目的や課題を明確にしていき、UDについての見方・考え方を広げてきた。6つの立場（子供・高齢者・耳が聞こえない人・目が見えない人・車いすの人・妊婦さんや小さな子供の親）で、その人達にとって使いやすいかどうかを考えた。1つの立場にとって使いやすい工夫だとすれば、星1つと考えると、「ふれあい公園」は6つの立場のどれに対しても使いやすい工夫があるということで、星6つ（UDレベル6）ということになった。その後、みんなで学校の近くの他の公園を見学し、「ふれあい公園」と比較することで、UD化があまり進んでいない公園のUD化を、みんなで進めていきたいという思いをもたせ、本単元における探究的な学びを展開していきたい。

情報の収集や整理・分析の場面では、社会福祉協議会や都市整備課、地域住民、他学年との連携を図りながら、アンケート調査やインタビューをする等、可能な限り人とつながる場を設定していきたい。

まとめ・表現の場面では、様々な手法を使って、探究的な学習活動によって知ったことや考えたことを、隣のクラスに分かりやすく伝えることで、互いの良さを学び合い、取り入れる活動を行いたい。また、地域の人や都市整備課に、公園のUD化についての提案をし、助言や激励を受ける場面を設定することで、友達と力を合わせて取り組むことの大切さや地域社会に関わる喜びなどを実感させたい。そして、実際に「UD公園」をつくるために、自分達にできることを実行したい。

協働的な学びの場については、前述したように、それぞれの児童が、調査活動や体験活動から多様な情報を手に入れ、それらを情報交換しながら学級全体で考えたり話し合ったりする場面を設定する。また、児童が探究したいテーマ別でグループを設定することで、課題設定に対して主体的に取り組ませたい。自分の課題をまとめた上で、新しいグループで話し合いをすることで、異なる視点から考え、児童自らの考えや課題が更新され、課題に向かって取り組んでいけるようにしたい。

## 単元の目標と評価規準

### 【単元の目標】

○UDの視点から、様々な人の立場になって、UD公園をつくるためにできることを考え、発信し、みんなが住みやすい町づくりをしようという思いをもつことができる。

### 【評価規準】

分かる・できる力	自分の考えを表現する力	協働する力	自分の成長に気付く力
①これまでの総合的な学習の時間における調べ学習をもとに、課題を設定することができる。 ②利用者と管理者の思いや願いを知り、「UD」という視点をもって公園について考えることができる。	①収集した資料を、客観的に比較したり分類したりして、整理・分析することができる。 ②「UD公園」について、相手に伝えるために、適切な表現方法を選んで、表現することができる。	課題解決に向けて、情報を収集・分析し、考えをまとめ、発信する活動を、仲間と協力して活動を進めたり、自分とは異なる意見や考え方があることに気づき、相手の立場を理解したりすることができる。	学習を振り返り、自分自身の福祉やUDについてのとらえの変容に気づき、思考の深まりを実感している。

## 指導と評価の計画

	学習内容『UD 公園を作ろう～みんなが住みよい町を目指して～』 (時数：29 時間)	主たる評価規準
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>○身の回りにある「みんなが使う場所」の UD について調べる。(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校以外の公共施設に注目していく中で、「公園」の中の UD を見つける。①</li> <li>・「ふれあい公園」を見学し、UD を見付ける。①</li> <li>・都市整備課の方から「ふれあい公園」の UD について話を聞く。①</li> <li>・近くの公園「道垣内公園」「深谷第 2 公園」を見学し UD を見付ける。②</li> <li>・「ふれあい公園」と「道垣内公園」などの地域の公園が、UD レベルがどのくらいかを考え、比較することで、「なぜ」をたくさん見付けて、探究的な学びに向けての意欲を喚起する。①</li> </ul> <p>○地域の公園の UD 化に向けての見通しをもち、発信する対象について検討する。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「UD 公園」を作るために何を知るべきか、都市整備課にどんなことを伝えていくのかについて考える。①</li> </ul>	<p><b>①分かる・できる力</b></p> <p>これまでの総合的な学習の時間における調べ学習をもとに、課題を設定することができる。</p>
二	<p><b>情報の収集</b> (本時)</p> <p>○道垣内公園を UD 公園にするために必要な情報を集める。(8)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園についての疑問 (都市整備課)</li> <li>・公園に対する願い (小学生, 地域の方, 社会福祉協議会, 都市整備課)</li> <li>・利用者状況 (小学生, 地域の方, 社会福祉協議会)</li> <li>・利用者の公園に対する思い (保護者, 小学生, 福祉協議会)</li> <li>・調べた情報をまとめる。②</li> <li>・情報を交流し、公園をどのようにしたら UD レベルがあがるのか (みんなが使いやすい公園になるのか) UD 案について話し合う。(本時) ①</li> </ul>	<p><b>協働する力</b></p> <p>課題解決に向けて、資料を集めたり、調査したり、整理・分析する活動を、仲間と協力して活動を進めたり、自分とは異なる意見や考え方があることに気づき、相手の立場を理解したりすることができる。</p> <p><b>②分かる・できる力</b></p> <p>利用者と管理者の思いや願いを知り、「UD」という視点をもって考えることができる。</p>
三	<p><b>整理・分析</b></p> <p>○収集した情報をもとに、クラス間の交流を行う。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収集した情報の分析を行い、整理する。②</li> <li>・自分達の情報と 1 組の内容を比較し、自分たちに生かせるものを見付け、活用する。②</li> </ul>	<p><b>①自分の考えを表現する力</b></p> <p>収集した資料を、客観的に比較したり分類したりして、整理・分析することができる。</p>
四	<p><b>まとめ・表現</b></p> <p>○整理・分析した情報をもとに、「UD 公園」にするために、行動する。(10)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を意識して、伝えたいことをまとめる。⑤</li> <li>・役場の都市整備課に、自分たちの考えた「UD 公園」についてプレゼンテーションをする。(自分達の力だけではできない UD, 自分達で取り組める UD) ①</li> <li>・都市整備課の方のお話を聞いて、学習を振り返り、自分たちの活動をさらに改善したり深めたりできることについて考える。①</li> <li>・「UD 公園」を作るために、自分たちができることを実行する。③</li> </ul> <p>例：看板での使用の呼びかけ・清掃・ベンチの改善</p>	<p><b>②自分の考えを表現する力</b></p> <p>「UD 公園」について、相手に伝えるために、適切な表現方法を選んで、表現している。</p> <p><b>自分の成長に気付く力</b></p> <p>学習を振り返り、自分自身の福祉や UD についてのとらえの変容に気づき、思考の深まりを実感している。</p>

## 本時の学習（15／29時間）

### 本時の目標

今の公園をどのようにしたらみんなが使いやすい公園になるのかについて考え、自分とは異なる意見を受け入れながら話し合い、UD案を決めることができる。

- (1) 準備物  自分の調査でまとめた資料、ワークシート、UD表
- (2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項 ◎支援を要する児童への手立て	評価規準 評価方法
<b>1 問題を把握し、本時の課題を設定する。</b>		
○前時までの振り返りをする。		
<b>2 めあてを設定する。</b>		
○前時で決めた「めあて」を確認する。	【めあて】UDレベルを上げるために、何ができるのを話し合い、実行したいUDを決めることができる。	
<b>★3 グループで話し合う。【協働的な学びの場】</b>		
○自分達が調べたこと（利用者の願い）を他のグループと交流する。 【グループ協働】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の時間、順番について確認する。</li> <li>◎何を伝えるのか事前に作った資料を用いて伝える。</li> <li>◎「UD案」が、どの立場の人にとって、どのように良いのか考える。そのために、6色のシールを用意して、その立場の人にとってよい工夫だと思ったら、「UD案」にシールを貼っていく。</li> </ul>	
○「道垣内公園」のUD化を図るためにできること（UD案）を考える。 【グループ協働】		
<b>4 全体で意見を交流する。</b>		
○「道垣内公園」のUD化を図るアイデアを座標軸に整理しながら、取り組むUDを考える。【全体】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・UDは多くの人にとって使いやすいという視点で常に考えるようにする。</li> <li>・縦軸に貼っていたシールの数、横軸は自分達にできるか、できないかを表した座標軸に整理しながら、実行したいUDを決める。</li> </ul>	
<b>5 本時のまとめをする。</b>		
○次時の学習について考える。	・実行したいUDについて、さらにくわしく考えていくこと、都市整備課の方に自分達の意見を伝えて活動を進めて行くこと等、今後必要なことを確認する。	
<b>6 本時の振り返りをする。</b>		
○本時の振り返りをワークシートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りの観点を明確にする。</li> <li>1 友達と協力して学習を進めることができたか。</li> <li>2 友達の考えから学ぶことができたか。</li> <li>3 目的（UD化）を意識して、自分の考えをもつことができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>課題解決に向けて、仲間と協力して活動を進め、相手の立場を考えることができたか。（協働する力）</li> </ul>

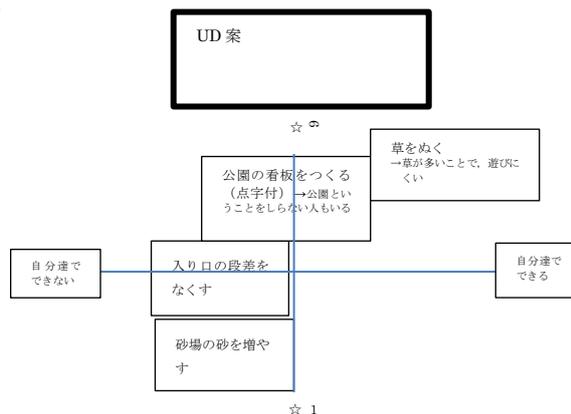
## 板書計画

UD 公園をつくろう～みんなが住みよい町を目指して～

④ UD レベルを上げるために、何ができるのかを話し合い、実行したいUDを決めることができる。

UD 表	小学生	妊婦さん	目が見えない	耳が聞こえない方	車いす	高齢者
ふれあい公園						
道垣内公園						

レベル0 → レベルを上げるために・・・



⑤ 誰かにとってよいことは、他のだれかにとっても良いこと。  
具体的に、何をどうするかを決めて行く必要がある。

## 参考文献

- ・ 朝倉淳・永田忠道 (2019) 『総合的な学習の時間・総合的な探求の時間の新展開』 学術図書出版社
- ・ 浅野房世・亀山始・三宅祥介 (1996) 『人に優しい公園づくり バリアフリーからユニバーサルデザインへ』 鹿島出版会
- ・ 亀山始・松寄由利子 (2004) 『やさしい人をつくる公園へーユニバーサルデザインの展開ー』 新樹社
- ・ 国立教育政策研究所教育課程研究センター (2020) 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 総合的な学習の時間】』 株式会社 東洋出版社
- ・ 鈴木敏恵 (2002) 『これじゃいけなかったの!?!総合的な学習の時間』 学習研究社
- ・ 田村学・黒上晴夫 (2013) 『考えるってこういうことか! 「思考ツール」の授業』 小学館
- ・ 錦織圭之介 (平成 29 年) 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 総合的な学習の時間』 東洋館出版社
- ・ 芳賀靖彦編 (2013) 『みんなのユニバーサルデザイン②学校で考えるユニバーサルデザイン』 川内美彦監修 株式会社学研プラス
- ・ 芳賀靖彦編 (2013) 『みんなのユニバーサルデザイン③学校で考えるユニバーサルデザイン』 川内美彦監修 株式会社学研プラス
- ・ 松村英治 (2021) 『令和時代の総合的な学習の時間入門 教科を超えて活用可能な指導力が向上する!』 東洋館出版社
- ・ 宮入賢一郎 (2014) 『トコトンやさしい ユニバーサルデザインの本 第2版』 日刊工業新聞社

### 【参考 web ページ】

- ・ 「郡山市 ユニバーサルデザイン子ども向け学習教材 思いやりのとびら」  
([http://www.city.koriyama.lg.jp/soshikinogoannai/shiminbu/shimin\\_NPOkatsUDosuishinka/gomu/1/UD/2709.html](http://www.city.koriyama.lg.jp/soshikinogoannai/shiminbu/shimin_NPOkatsUDosuishinka/gomu/1/UD/2709.html)) (参照 2021-5-5)
- ・ 「みんなの公園プロジェクトーユニバーサルデザイン (UD) によるインクルーシブな遊び場づくり」  
(<http://www.minnanikoen.net>) (参照 2021 - 6 - 22)